

コード No. 18661

**Anti-Human  
NFκB p50 (N) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 μg

- 
- はじめに** : 1986年に免疫グロブリンκ軽鎖遺伝子が成熟B細胞特異的に発現するために必要なエンハンサー領域に結合する転写因子が同定され、Nuclear factor κB (NFκB: エンハンサー中のB領域に結合する因子)と名付けられました。その後、NFκBは、p50とp65のヘテロ2量体であることが明らかにされ、さらにそれぞれ、cDNAクローニングよりc-Rel(脾臓に腫瘍を誘発するトリレトロウイルス (reticuloendotheliosis virus strain T)の発がん遺伝子タンパク)と高い相同性を有することが明らかにされ、現在ではRelファミリータンパク質に分類されています。シグナル伝達系において、NFκBは細胞質内でIκBと複合体を形成し、不活性化されています。NF-κBは多くの細胞に分布している転写因子であり、種々の刺激に伴いIκBが分解されることにより、核に移行し種々の遺伝子発現を制御すると考えられています。
- 免疫抗原** : Human NFκB p50 protein のN端部分合成ペプチド
- 精製方法** : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態** : 1% BSA、0.05% NaN<sub>3</sub>含有PBS 1.0 mLに溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法** : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は100 μg/mLとなります)
- 保存方法及び安定性** : 2 ~ 8 °C 保存 5年間安定  
溶解後 -20 °C 保存 2年間安定
- 使用目的及び使用方法** : 免疫組織染色 5 μg/mLにて使用可能  
(ホルマリン固定・パラフィン包埋切片、マイクロウェーブ処理が必要 (10 mM クエン酸緩衝液 pH6.0))  
: ウェスタンブロッティング 1~5 μg/mLにて使用可能
- 特異性** : Human KG-1 Cell Line および Human Raji Cell Lineにて確認